

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102442		
法人名	有限会社あいか		
事業所名	グループホームあいか		
所在地	岐阜市鏡島精華2-4-24		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102442-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102442-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム開設以来看取りを行っている。開設20年を迎え看取りを希望されるご家族も増えてきている。本年度は看取りの研修にて事例をまとめ振り返りを行うことができた。またコロナ禍の中でも家族とのかかわりが分断されないように面会の工夫などを行いながらかかわりを継続することができた。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、看護師・保健師の資格を持ち、認知症介護の経験年数も長い。協力医、訪問看護ステーション、歯科医、利用者のかかりつけ医等とも連携しながら支援に取り組んでいる。利用者の健康管理に努め、特に食べることは健康のパロメーターと捉え、食事のバランスと摂取状況を常に確認している。事業所での看取り希望が多く、契約時に方針を説明し看取りに取り組んでいる。利用者、家族が安心して終末期を迎えられるよう看取り体制を整え、研修を兼ねた振り返りを行い職員の力量を高めている。開設時からの経験豊かな職員が多く、後輩や新人育成に携わりながら、自身の資質向上に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①一人一人のペースや自由を大切に②住み慣れた暮らしに近い安らげる住まいや穏やかな雰囲気大切に③いつもの仲間やスタッフと一緒に暮らしの中でのなじみの関係を築く④一人一人の残存能力を生かすケアを提供する⑤地域の人々や自然と触れ合いながら生活を送るを理念として掲げ事務所の見えるところにいつでも確認できるように掲示している。	5つの理念を掲げ、職員の目につきやすい場所に掲示し、出勤時の確認、退勤時の振り返りを行っている。理念を常に意識したケアが行えるよう、工夫しながら身に着けている職員もある。自分の身内を入居させたい、友人に自信を持って紹介できるグループホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として近所のスーパーや喫茶店を利用していたがコロナ禍では交流がもてていない。スタッフはなじみのスーパーを使うなど引き続き交流を続けている。	自治会に加入し、地域の情報は回覧で把握している。地域行事は中止が多いが、庭の手入れや花の管理など、近隣住民の協力を得ることができている。買い物も近隣の店を利用するなど、地域貢献できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解を拡げるため地域での勉強会や大学などへの講演を通して地域の人々に向けた活動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はほぼ書面開催となり報告事項がほとんどであった。昨年度の外部評価結果についてはご家族にお知らせできた。	年6回、運営推進会議を開催している。近隣薬局の薬剤師の参加も得ている。コロナ禍で書面会議としており、議事録を送付または届けている。今後は、対面での会議を計画している。	運営推進会議に自治会代表が不参加である。地域密着の意義を踏まえ、できれば自治会代表を訪ねて参加を依頼し、地域の意見が会議に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	例年市町村とは運営推進委員会に出席いただいたり相談時など窓口へ伺うなど連絡を密にとっていたが今年度は機会がなかった	コロナ禍で運営推進会議は書面開催となっている。直接、市担当者に議事録を持参し、利用者状況や活動等の報告を行っている。日常的に困難事例などを相談し、指導や助言を得ながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。委員会の設置はあるが現在のところ実施した例はない。玄関の施錠については運営推進会議の議題に上げるなどして意見を交換している。また入居時には施錠についてご家族より同意をもらっている。	「虐待防止・身体拘束の適正化委員会」を定期的に開催し、事例を挙げながら課題を話し合っている。また、外部講師による研修会を開き、身体拘束の弊害や虐待防止についての認識を高めている。施錠については、人的配置が困難な場合及び外部からの侵入者を防ぐ為に、玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修を実施している。今年度も実施し、虐待につながる不適切なケアについてグループワークを行い具体的な事例について話し合った。また常日頃より言葉遣いなどから注意を払い防止に努めている。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり担当の弁護士などと連絡を取りながら活用している。また必要と思われる利用者さんにはご家族に資源として紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はご家族ご本人に重要契約書を中心に説明し理解していただいている。十分に読むことができるよう事前にお渡しし時間をかけて読むことができる配慮をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け意見を伺う機会を設けている。またご家族へは面会時などになかなか来られないご家族へは電話などで状況を報告するなどし意見をいただく機会としている。	コロナ禍での面会は、窓越しや時間制限を設けて実施している。事業所は交通の便の良い街中にあり、家族の訪問も多く、その際に意見や希望を聞いている。遠方の家族には、電話等で利用者の様子を知らせ、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年9回あるカンファレンスには代表管理者が出席し職員の意見を聞くなどしている。また普段より職員とは日常的に意見交換しておりコミュニケーションをはかっている。	管理者が看護師・保健師資格を持っていることで、職員は安心してケア業務に従事できている。代表、管理者、職員との間には信頼関係が構築されており、勤務体制の調整や資格取得支援を奨励し職員のモチベーションアップと定着率に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上の一環として電子レンジの設置や本人のやりがいや希望に沿って担当場所を考慮するなど職員が働きやすい環境を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を設け各自の課題に沿った研修を行っている。研修に参加できるよう休日を配慮するなど研修を受けやすい環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などの情報提供を行い同業者との交流する環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い本人の希望を伺っている。本人が安心できるよう具体的な日常の流れやイベントの様子などをお伝えしイメージできるようにお話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも事前面談を行いご家族の希望を伺っている。ご家族の心配なことなど具体的にお聞きしながら解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の段階では入居を前提ではなく必要な支援を共に考え、ご相談に来られた経緯などをお聞きしながら必要な支援を考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの介護方針である「一緒に行く、入居者さんとは対等な関係である」を具体的に言葉遣いなどから関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはともに支えあえる関係として外出支援やイベントへの参加などを呼び掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係が途切れることのないよう施設へのご面会をお願いするなどいつでも気軽に来所できる環境づくりを行っていたが今年度は面会などは行えなかった中で、電話やオンラインの環境を整えることができた。	コロナ禍で、以前のような馴染みの関係を継続するための支援は行なえていない。理・美容師等の訪問を受けたり、家族が馴染みの人と一緒に訪問することはある。職員が地域の行事を話題に声かけすると、利用者の記憶や思い出を引き出し、さらに共有しながら、利用者同士の新たな関係作りにも繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し食堂の席の配置などを考慮している。季節ごとのイベントを通して楽しみを共有するなど行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後においてもボランティアに来ていただける方もいるなど関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望をおたずねしながらまた困難な場合はご家族からお話を伺ったり今まで生きてきた生活史などを参考にしながら思いを把握している。ご自宅に帰りたいなどの希望がある場合などはご家族と相談しながら外泊や外出支援を行っている。	個別ケアや行事を通して、利用者の表情や仕草、会話の内容等で思いや意向を把握するよう努めている。帰宅願望のある利用者には、気持ちが落ち着くまで寄り添い、見守りで支援している。ケアの中で新たに知り得た情報は個別記録に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについてご家族やご本人からお話を伺いながら手仕事や庭仕事をお願いしたりしている。また畳生活などの方にはお部屋を和室対応にするなどなじみの暮らし方を提案するなどしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状況を記録に記載しながら変化を観察している。特に体調管理に関しては定期的に健康観察を行うなどしている。また日常動作についても今持てる力を把握しながらケアに活かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの方法については3か月ごとにモニタリングを行い修正している。カンファレンスでは全員で意見を出し合い目標の修正やケアの方法の見直しなどを行っている。	管理者がケアマネジャーでもあり、現場で利用者の状態を把握している。ケアプラン作成時には家族からの希望を聞き、日々の利用者の記録や職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	コロナ収束後の介護計画作成会議は、家族も参加できるよう、都合に合わせて日程調整が望ましい。実際に利用者の状態やケアの様子を見てもらった上で、介護計画や支援についても家族の理解を得られるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。また課題に対する取り組み、結果をわかりやすく表記する工夫を行いすぐに記録できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望の美容院への送迎や、買い物支援など柔軟な対応を行っている。また家族に代行して病院付き添いなどを行っている。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で参加できるサークルなどの情報を共有しながら社会参加できる方法を考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは入居前の病院が継続してかかることのできるよう調整を行っている。また主治医を変更する場合には情報の共有などを行いスムーズに移行できるよう支援している。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明している。個別のかかりつけ医の往診と協力医による月2回の往診がある。また、定期的に訪問看護師も訪れており、事業所の看護師や職員と連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職や訪問看護などとは状況報告、緊急時の連絡など密に連絡を取りながら健康管理を行っている。また体調不調などにはすぐに看護師へ報告し適切な処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には退院後の生活を見据えてご家族、病院関係者より情報を共有しスムーズにホームでの生活が継続できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について入居時から看取りについての説明をしている。ご家族へはホームでできることリスクなども含め説明しご家族、本人、主治医と相談し支援を行っている。近年社会状況の変化から看取りを希望されるご家族も多くなってきている。今年度は看取りの希望をおたずねするだけでなく書面を整えることができた。	契約時に、重度化や終末期の指針を説明し、本人・家族の同意を得ている。状態の変化時は早い段階で、医師を含めて関係者が話し合っている。事業所で出来ることについて、書面を提示した上で説明をしているが、看取り希望の家族も多く、職員研修を重ねながら、支援体制の充実を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には応急手当などの訓練を行いイメージトレーニングなどを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は今年度も4回実施した。水害の避難訓練、夜間を想定した訓練は3月後半に実施予定している。備蓄の食品の期限などの見直しも定期的に行うことができた。	夜間想定を含め、年2回の防災訓練、さらに地震・水害についての訓練を年2回取り組んでいる。訓練後には振り返りを行い、運営推進会議でも報告している。地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を整えている。備蓄の管理、点検も定期的に行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。とくに排せつに関してなど本人のプライバシーなどに気を付けて支援するなど留意している。	職員研修の年間計画があり、接遇、人権やプライバシー保護については、重要な項目として学んでいる。特に入浴や排泄介助時には羞恥心に配慮し、利用者の誇りを傷つけないよう支援している。声かけ等でも、馴れ合いになることのないよう心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定できるよう本人の能力に合わせた働きかけを考慮し実施している。着替えの場面や食べたいものなど本人の能力に合わせて声掛けなどを行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に食事を自室でとっていただいたりする方や入浴などの希望をお聞きしながら個別浴を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう支援している。ネックレスや指輪などを引き続き楽しんで好きな洋服を着ることができるよう支援している	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備において野菜の皮むきなどを一緒に行ったりしながら楽しんでいる場面もある。温かい食べ物を温かく提供できるよう電子レンジを設置するなど配慮している。	食材は近隣の店で購入し、家族や近隣からの差し入れ野菜なども活用しながら、三食を手作りしている。食事が利用者の健康の源となるよう、利用者の希望も取り入れながら、栄養バランスの良い献立作りに努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた家庭食を手作りにて提供している。季節ものを大切にしている。またミキサー食やきざみ食など食事形態を工夫している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。また定期的に歯科往診をしていただき口腔内の清潔保持を行っている	



岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンを把握し定時ではなくその方にあった排せつケアを行っている。利尿剤や尿疾患なども把握しながらトイレでの排せつができるだけ行えるよう支援している。トイレの場所がわかるよう目印をつけるなど自立への支援を行っている。オムツの試供品にて心地よいオムツへの変更などを行っている。	トイレでの排泄が習慣になるよう、声掛けと誘導で支援している。薬を服用している人の排泄パターンも詳細に把握し、現状維持できるよう支援している。排泄用品が個々の状態に合っているか、本人が快適に過ごせているか等、職員間で話し合い、家族とも相談しながら、新しい試供品等も試している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しても個々の状況を把握し働きかけている。食後に必ずトイレ誘導をし排便を促すなどなるべく薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	汚染があった場合などには曜日時間に関係なく清潔が保たれるよう支援している。一人一人の個別浴としている	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望で柔軟に対応をしている。利用者ができない事は介助し、出来る事は手を出し過ぎないように、コミュニケーションを図りながら見守りで支援し、自立に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた休息の支援を行っている。お昼寝の時間を確保したり、薬に頼らない入眠支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関して一人一人の内服状況が把握できるようカルテの工夫を行っている。また誤薬のないよう何度もチェック項目を重ね事故の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみなことを把握し気分転換が図れるよう工夫している。イベントなどを開催し歌が好きな方にはカラオケなどをしてもらうなど楽しみを工夫している。またお花づくりが好きな方には庭の手入れなどをお任せしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出支援はコロナの影響によりできていない状況であったが、暖かい日には玄関先で花木をみるなど工夫した。今年は花見を行う予定である。	天気の良い日は、庭に出て花を見たり、外気浴を行っている。今年は感染予防対策をした上で、桜を見に行くことが出来ている。今後は家族の協力を得て、できる限りの外出支援を行う予定としている。	



岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族管理のことがほとんどであるが、能力に合わせた支援を行っている。スーパー、美容院への外出などでは本人管理できる場合には実施してもらうなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望などがあれば自由にできる環境を整えている。今年度はオンライン面会ができるよう環境を整備した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では不快とならないようにおいの工夫や温度、光などを留意している。また季節の花を飾るなど心地よく生活できるような配慮を行っている。常時換気を行いコロナ対策を実施している。感染対策として低圧換気システムを導入した。	共有の空間は広く、ゆったり寛ぐことが出来、福祉用具が必要な利用者も安全に移動することができる。サンルームでは、利用者が四季折々の花を育て楽しんでいる。感染予防対策として、自然換気、温湿度管理の徹底に加え、低圧換気システムを導入し、安心・安全な空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではリビングを中心に過ごせる居場所を提供している。2階では日当たりの良い場所にソファを置くなど心地居場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今までの生活でなじみのあるものを使用しリラックスできる空間づくりを行っている。家族の写真を飾ったりカレンダー、風景の写真などを飾るなど安心できる環境づくりを考えている	自分の部屋が一目でわかる表札が掲げてある。広いクローゼットがあり、整理整頓がしやすい。窓も大きく、部屋全体が明るい。好みの物を持ち込み、家族の写真や思い出の作品を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるようバリアフリーの室内とし安全に生活できるようにしている。またトイレの場所など混乱しないよう大きな文字にするなど工夫している		